

# 台湾代表団、G I S H Wの考察



台湾(中華民国)労働部主任秘書  
**鄒子蓮**  
(フーリエン・ツォウ)

英ラフバラ大で博士号取得。幅広い産業で労働安全衛生行政に36年間従事。台北市労働検査所長(10-15年)、職業安全衛生署(SHAW)署長(17-25年)。

大阪・関西万博で万博史上初めてとなる安全・健康・ウェルビーイングをテーマにしたGISHW(Global Initiative for Safety, Health & Well-being at Expo2025 and Beyond)イベント。玉来への贈り物として、80億人の安全・健康・ウェルビーイングの開催に合わせ、国から50人の代表団が大分県を訪れた。台湾労働部主幹(部)の総務課長を団長、全国製造業職業安全衛生推進協議会(OSSHA)会長の蔡清海氏、さらに台湾の北部・中部・南部地域のCOSH+W代表が加わった。7月16日まで、代表団は大阪で、GISHW2025、そしてJIOSH+W2025に参加した。

## メンタルヘルス 世界に先行

現在、台湾は急速なインフラ整備の必要性、人手不足、高齢化といった課題に直面している。今回の訪問で最も印象的であったのは、日本の建設現場が従来の「3K」イメージから脱却を目指し、東京直営、セレクト・プレイ・Q・インストラクションといった取り組みを積極的に推進していた点である。

同イベントでは、労働安全衛生リーダによる「職場におけるメンタルヘルス・ファースト・レスポンス」国際フォーラムに参加した。台湾の関連政策と経験・実績を紹介し、特に職場でのいじり対策として、労働安全衛生を改正し、メンタルヘルスと関係の保護措置の強化について報告。この分野で台湾は世界を先導する可能性があると強調した。

また餐食とともに、複数の建設シンポジウムに出席。大阪・関西万博建設工事の過酷な作業環境の中で死に災害ゼロが達成されたこと、精神(心)・技術(技)・身体(体)の三位一体にわたる包括的な支援体制で労働を支えたことに深い敬意を示した。

台湾の建設業界は2023年から一建設現場の見え方の安全・減災キャンペーンを展開している。現場作業員のヘルメットや作業服のカラーリングを統一するなどの注意事項を一見する化し、実用的かつ視認性の高い技術や手法の導入を企業に促している。

具体例としては、表示やリスクマップ、センサー作動式の警告灯・放送装置、異常検知機器などを導入。この「見える安全」の概念を日々の安全サイクルに組み込むことを推進し、毎日の5分間安全ミーティングを通じて危険予知を徹底している。

この取り組みにより、台湾の建設労働者の間で安全意識と習慣が確実に高まっている。

今回のGISHWイベントに参加した日本企業の代表者は、日本の新たな知見を得て、台湾でも危険予知や「見える安全」の深化を図ることを目指している。

# 万博機に危険予知深化

## 日本の専門家と交流、新たな知見

GISHWイベントで開催された「はたらく現場の環境展(JIOSH+W)」玉来まつりの国際版XPOでは、遠隔操作建設機械、外壁清掃ロボット、切創防止具などの先端技術を体験した。これらの革新的技術は、職場の安全と生産性向上に資するとして、台湾代表団の注目を集めた。

熱中症対策についても学びあふことが多かった。企業が直面する異常気象への対応として、台湾は昨年6月に「異常気象熱中症予防ガイドライン」を改定して現場の状況に応じて、合理的かつ実行可能範囲で送風機や遮光シート、ミスト散布装置を導入し、労働者の熱中症を低減することを事業者が求めるものだ。

台湾代表団の訪日目的は、6月1日から現場にわたる熱中症対策の強化が、安全文化の定着、共有の労働者へのファン付け、作業環境の慣れに繋がっていることを確認した。さらにJIOSH+Wの会場では、軽便実用的かつデザイン性にも優れた各種抑振機器が展示され、台湾代表団の強い関心を引いた。

台湾は、2030年台湾職業安全健康促進戦略(2030年台湾・職業安全健康促進戦略)を掲げ、「災害リスク低減」「健康促進」「安全文化の定着」の3分野への投資を強化している。

## 30年 重大災害死亡率半減目指す

インテリジェントな機械抑振機器が展示され、台湾代表団の強い関心を引いた。台湾は、2030年台湾職業安全健康促進戦略(2030年台湾・職業安全健康促進戦略)を掲げ、「災害リスク低減」「健康促進」「安全文化の定着」の3分野への投資を強化している。

30年までに重大災害死亡率半減させることが目標である。GISHW2025およびJIOSH+W2025は、世界の労働安全衛生専門家や関係機関と学びあう絶好の機会であった。今後は日本との交流を深め、共同セミナーや現場視察、共同研究、さらには安全協力に関する書籍刊行などを通じて、多様な連携を進めたい。車山野としては、安全衛生マネジメントシステム、リスク評価、中小企業における安全衛生対策、安全技術、働く人の健康と健康増進、危険な機械への対策、人工知能(AI)活用、労働安全衛生の教育訓練、安全の「見える化」施策、そして安全意識手法などが挙げられる。

安全・健康・ウェルビーイングを推進する働く場の共同創出、その根底にある「共創」の理念を強く肌で感じた。



GISHW2025開幕イベントに出場した台湾代表団(前列左からOSSHAの蔡清海氏、Zou Zilian氏)。

働く人の安全・健康・ウェルビーイング



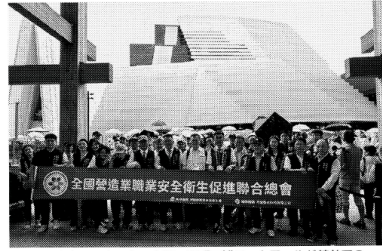
JIOSH+W 2025開幕式で、労働安全衛生に関するプレゼンテーションが行われた。



COSH+PAの李連成氏と台湾代表団がJIOSH+Wで、遠隔操作建設機械を体験した(7月16日)。



はたらく現場の環境展(JIOSH+W)を視察する台湾代表団



台湾代表団50人による大阪・関西万博テックワールド館前での記念撮影(7月17日)